

絶筆となった手紙

寄贈／森田健司

被爆直後の8月11日に、森田知之さん(20歳)が兄の愛之さん(33歳)に宛てた手紙。母たちの消息が分からないこと、自分も足が十分でなく動けずにいることなどが記されている。その後、知之さんは亡くなり、この手紙が絶筆となった。



「一筆走書きします 母上、親之兄、重子姉の消息は全く不明 恐らく駄目と思ひます。私のみは不思議に生あって、現在■■■様方に御厄介になつて居ります。足が未だ充分でないので一步も外出しません。何とか連絡をつけたいと思つて居ります。もう二三日の辛棒と思ひます(以下略)」